

# 第10次札幌市環境審議会 第7回会議

## 会 議 録

日 時：平成29年7月5日（水）午後2時30分開会  
場 所：北海道建設会館 8階 A会議室

## 1. 開 会

○松田会長 定刻となりましたので、ただいまより、第10次札幌市環境審議会第7回会議を開催いたします。

まずは、事務局より委員の出席状況の報告と配付資料の確認をお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） 環境計画課長の金網でございます。

私から委員の出席状況と資料の確認についてご説明いたします。

まず、委員の出席状況についてですが、本日は、岸委員、西川委員、村尾委員、余湖委員の4名の方から欠席のご連絡をいただいております。

また、田部委員につきましては、遅参のご連絡をいただいております、後ほど出席されます。

本日の出席予定委員ですが、16名となっております、総委員数20名の過半数に達しておりますので、札幌市環境審議会規則第4条第3項により、この会議が成立していることをご報告いたします。

また、本日は、今年の2月から本審議会の委員として就任いただいております札幌商工会議所環境・エネルギー委員会委員長の眞鍋委員に初めてご出席いただいております。

眞鍋委員、恐れ入りますが簡単で結構でございますので、自己紹介をお願いいたします。

○眞鍋委員 ただいまご紹介にあずかりました眞鍋でございます。

前任の中野委員長にかわりまして、新たな役割についたものですから、出席させていただきます。今後とも、どうぞよろしくをお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） ありがとうございます。

それでは、続きまして、配付資料の確認をさせていただきます。

お手元の資料をご確認ください。

次第をめくりまして、上から委員名簿と座席表が裏表になっております。次に、右肩に番号を振っておりますけれども、資料1として、第2次札幌市環境基本計画の素案、本編と資料編に分かれて2冊ございます。次に、資料2として、水環境計画の今後の方向について、こちらも別添でA3判の資料がついております。最後に、資料3として、環境基本計画の策定に向けた経過と今後の予定というA3判の資料1枚物となっております。

このほかに本日追加資料もございます。まず、宮本委員からご提供いただいておりますが、北海道の環境保全活動データベースであるきたマップの試験運用が始まりましたということで、A4判1枚物の資料をいただいております。

次に、ホチキス止めをしておりますが、6月16日に開催した「持続可能な地域づくりシンポジウム」のアンケート集計結果を大崎委員からご提供いただいております。

私ども事務局から先にメールでお送りしておりますが、A3判資料1枚物で、2050年に向けた札幌の将来像（目指す姿）について、各委員からいただきましたご意見の一覧です。

最後に、カラーのA4判資料ですけれども、7月24日に開催を予定しております事業

者向けの環境ワークショップのチラシでございます。

お配りしております資料は以上ですが、足りない資料はございませんか。

もし足りない資料がございましたら、また手を挙げてお知らせいただければと思います。

事務局からは以上です。

## 2. 議 事

○松田会長 それでは、次第に従いまして議事を進めます。

まず、議題の一つ目、第2次札幌市環境基本計画素案について、これが最終答申になります。本議題では、前回会議で提案されました計画素案に対し、これまで出ました意見を踏まえまして、修正したものについて、改めて事務局より情報提供いただき、最終答申として固めていければと考えております。

それでは、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（佐竹調査担当係長） 環境計画課の佐竹です。

事務局から、第2次札幌市環境基本計画素案についてご説明させていただきます。

資料は、まず、資料1と資料2をご説明させていただければと思います。

私から、資料1について説明させていただきます。

今回の素案につきましては、前回会議、5月15日に開催させていただきました。そこでいただきました意見を反映させていただき、修正したものとなっております。

まず、資料1を2枚めくっていただきますと目次がございます。こちらの目次で構成を確認させていただきたいと思います。

こちらの構成につきましては、前回の素案からは特段修正を行っておりません。

第1章といたしまして、基本計画の位置付け・計画期間、第2章といたしまして、札幌における環境問題の変遷と状況、第3章といたしまして、札幌が目指す将来像、第4章といたしまして、その将来像を実現するための五つの柱、2018年、来年から2030年までの取組内容ということで、五つの項目を立てしております。一つ目として健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現、二つ目として積雪寒冷地に適した低炭素社会の実現、三つ目に資源を持続可能に活用する循環型社会の実現、四つ目に都市と自然が調和した自然共生社会の実現、五つ目に環境施策の横断的・総合的な取組の推進、第5章といたしまして、「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた市民や事業者等の役割、最後に、第6章といたしまして「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた推進体制とSDGsの位置付けとなっております。

特に前回の会議から大きく修正があったものについてご説明させていただければと思います。

まず、大きく修正があったところにつきましては、第3章の札幌が目指す将来像で、13ページになります。

5として、2050年に向けた札幌の環境の将来像（目指す姿）とあります。こちらに

つきましては、前回の会議で様々なご意見をいただきました。また、別紙で付けておりますけれども、会議が終了した後も、委員の皆様方から、この将来像に関して、こういった表現ではどうかということでご提案をいただいたところです。提案をいただきまして、その後、起草委員会、会長、副会長、部会長と事務局でさらに議論を行いました。その結果、将来像としまして、次世代の子どもが笑顔で暮らせる持続可能な都市「環境首都・S A P P L R O」という表現を今回提案させていただきます。

また、この将来像に紐づく下に三つの丸がありますけれども、それを説明するための文章といたしまして、市民一人ひとりが積雪寒冷地における生活のあり方を工夫し、改善し続けることで、将来に渡って自然の恵みを守り、札幌らしい豊かな暮らしの文化が根付いている都市、そして、産学官民が協力して、地球温暖化対策や生物多様性の保全、持続可能な資源循環など、国や地球規模での環境問題の解決に率先して取り組み、国内外にその取組と魅力を発信している都市、そして、北海道の豊富な自然エネルギーや資源を活用することで、エネルギーや製品の地産地消が進み、環境関連産業が発展した経済的循環が実現している都市、これを今回将来像として提案させていただいております。

中身と考え方としましては、前回の目指す姿が持続可能に発展し、世界が注目する都市と環境首都・札幌という表現だったのですけれども、世界が注目する、世界に注目されるということで、少し受け身な表現だったところ、それから、世界が注目することが目的になってしまっていないかというようなご意見をいただきました。その部分は削除しておりますが、2050年の時点で持続可能な都市であること、また、そこに住む札幌市民、皆が幸せであることを表現したいと考えまして、特に次世代の子どもたちが将来にわたっていつまでも笑顔で暮らせる、そうすることで子どもたちを育てている親世代ももちろん笑顔で幸せに暮らしているという姿を今回ここで表現させていただきました。この会議の中でもご意見などがございましたらいただければと思っております。

その下の持続可能な都市とはという表現も、大きく変わっていないのですが、この上の表現にあわせて中身を少し見直しております。こちらは後ほどご覧いただければと思います。

そして、修正があった部分としましては、次の14ページになります。

14ページの(3)本計画における「持続可能な開発目標(SDGs)」の位置付けとあります。こちらは前回までの素案では、持続可能な開発目標への貢献という書き方をしておりました。この計画において、環境対策を進めることで、SDGs、国連で採択された持続可能な開発目標に対してどう貢献していくのかということに記載していたのですが、貢献という書き方にしてしまうと、環境基本計画がSDGsを達成するための計画という捉え方もできてしまう可能性があったので、ここでは位置付けというタイトルにしております。

その中身の表現といたしましては、15ページの3行目の「そこで」の後ですが、「本計画では、施策の推進によってSDGsのどの目標の達成に寄与していくのかを示すと

もに、将来の世代に豊かな環境を残すために世界が目指す目標と現世代の責任について、市民一人ひとりの自覚と行動を促すことで、本計画の確実な推進と持続可能な世界の実現に向けた札幌市の役割の強化に繋がっていきます」ということで、貢献という言葉を使わずに、この計画がどういったSDGsのゴールに繋がっていくのかということを示して、同時達成的にそれを進めていくというようなことをここで記載しております。このSDGsの扱いについては、後ほどまたご説明させていただきます。

大きく変わった部分としましては、17ページの第4章の最初の部分で、将来像を実現するための5つの柱というタイトルがあります。前回の会議の時に、この環境基本計画、さまざまな関連計画がありまして、それと五つの柱との関係を表現できないかというご意見をいただきました。何とか図で表現できればと思ったのですが、少し難しい部分がありましたので、表でマトリックス形式にしまして、縦の列に五つの柱のそれぞれの項目、横軸に各種関連計画を書きまして、その関連計画と五つの柱で、特に深く関わる計画、深く関わる計画という2段階の評価でこちらの丸をつけております。

18ページ以降のそれぞれの五つの柱の中身につきましては、委員の皆様方からご意見をいただいた部分につきましては、おおむね修正を入れております。

こちらは、いただいたご意見をもとに修正しておりますので、ご意見いただいた委員の皆様方にはご確認いただければと思います。

最後に、大きく変わった部分としまして、第6章になります。

51ページの「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた推進体制とSDGsの位置付けとあります。

この推進体制の部分で、環境基本計画の点検・評価の視点についてご意見をいただき、修正させていただいております。追加があった部分としましては、真ん中にあります点検・評価の視点の(1)(2)が増えております。点検・評価をする上での視点として、まず、(1)番の本計画で記されている事項が個別計画にも反映されているか、反映されていない場合には個別計画の改定時に反映するよう、上記会議体、こちらについては、札幌市の内部における会議体と環境審議会です。現在の環境審議会は今年11月末で任期が終わってしまいますので、次の第11次審議会にその点検・評価の役割を担っていただくことになるかと思っております。そういった会議体において審議をいただくということが一つ目の視点です。

二つ目の視点として、五つの柱における目指す姿にどの程度近づいているかということがあります。こちらは、2030年に向けた五つの柱それぞれに目指す姿を記載しております。それぞれの目指す姿に対して、きちんと取組が近づいているか、目指す姿がさらに先に行くようなものであれば、その目指す姿自身を改めて評価するということが、(2)の矢印1行目が目指す姿そのものを評価すること、二つ目が個別計画における目標、成果指標の達成度において目指す姿に近づいているかということを経営体において評価することを経営体の視点として入れております。

また、最後に2として、「環境首都・SAPPRO」の実現に向けた取組とSDGsの位置付けということで、再びSDGsが出てきましたが、こちらは次のページをめくってください。

SDGsで記されている17の目標のうち、今回の環境基本計画で関連している12個の目標に対してそれぞれ五つの柱、それから、取組内容を評価しまして、関連するものについて1ページの表でまとめております。

では、実際にこれがきちんとSDGsに繋がっているのかどうかということで、もう一冊ついております資料編で細かくチェックしております。資料編の16ページ以降に、6としまして、持続可能な開発目標と五つの柱との関係ということで、持続可能な開発目標SDGsにおける169のターゲットと五つの柱における取組を一つ一つチェックしていきまして、関連しそうなものに丸もしくは三角ということでチェックをつけていきました。これによって、先ほどの表が最終的にまとまっている形になっております。

前回の素案から今回の素案に対しての大きな修正点については以上となります。

細かい文言などはいただいたものをベースに、もしくは、加除修正が必要なところについては修正を加えておりますので、ご確認いただければと思います。

資料1につきましては以上となります。

資料2につきましては、環境対策課からご説明いたします。

○事務局（八田環境対策課長） 環境対策課長の八田でございます。

資料2をご覧ください。

水環境計画につきまして、前回の審議会で、半澤實委員からご意見を頂戴したところでございます。現時点での考え方についてご報告させていただきます。

水環境計画は、平成15年度から平成29年度までを計画期間といたしまして、良好な水環境を保全創出するための基本方針と目標を示すものとして策定されました。

まず、資料2の下半分でございます、取組別評価の項目をご覧ください。

計画では、三つの水環境像、九つの水環境目標を掲げて、様々な取組を進めてまいりました。

このたび、平成28年度末までの評価を取りまとめたところ、全体を通しておおむね達成できたというふうに考えてございます。詳細につきましては、1枚めくったA3判サイズの別紙に細かく記載しております。

戻っていただきまして、資料上半分についてでございます。

今後、水環境計画については、第2次環境基本計画の中に盛り込んでいくという方向で考えております。

その理由について図で示しておりますけれども、平成15年当時、環境基本計画と各局の事業の間には水環境に関する方向性を示すものがなかったため、水環境計画を策定したという経過がございました。ところが、今、例えば、札幌市みどりの基本計画、札幌水道ビジョン、札幌下水道ビジョンなどの各部門における計画が既に策定されておまして、

それぞれに水環境に関する方向性が示されており、このことから、現時点では、水環境に関する施策だけを抜き出して計画としてまとめる必要性が乏しくなっております。

また、先ほどの素案の17ページ目をご覧いただきたいと思います。

第2次環境基本計画の五つの柱と各部門の計画の関係を示しております。このように、水環境に関連する内容も含めまして、環境基本計画は市としての環境施策の方向性を示すまさに基本の計画でございます。先ほど来ご説明申し上げた水環境計画の全体目標の「おおむね達成」とあわせまして、今後この水環境計画の内容につきましては、しっかりと第2次環境基本計画の中に盛り込んで進めていく考えでございます。

私からは以上です。

○松田会長 ただいま事務局より計画素案について説明がありました。

各委員からご意見をいただいた部分については、事務局で検討した上、おおむね修正がなされていると思います。ただ、この修正内容自体、さらに修正が必要な箇所などについて、委員の皆様からご意見をいただきたいと思いますので、ご意見があればお願いいたします。

○半澤（實）委員 第1点は、水環境計画は、環境基本計画本体に織り込むということで、私も環境白書等を見まして、今、おっしゃっていた様に概ね良好な成果を上げていると思いますが、今回の計画の中ではどの部門に織り込んでいこうとしているのか、その点を教えていただきたいと思います。

○事務局（八田環境対策課長） 素案の目次をごらんいただきたいと思います。

第4章に掲げる将来像を実現するための五つの柱の中の1本目の柱、健康で安全な環境の中で生活できる都市の実現（3）の「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた2030年までの施策の方向の中に、良好な大気、水、土壌その他の環境の確保という項目が設けられております。

また、分かれてしまっているのですけれども、同じ5本柱の4番目、都市と自然が調和した自然共生社会の実現（3）の「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた2030年までの施策の方向の2番目に、水やみどりの活用、ふれあいの促進という項目がございます。その中に基本的な部分を練り込ませていただいております。

○半澤（實）委員 今回の計画には三つの水環境像と九つの目標像がありますが、今回の本体に織り込むときにも、極力入れていただきたいというのが私の基本的な考え方ですが、その辺はいかがですか。

○事務局（八田環境対策課長） 前向きに検討させていただきたいと思います。

○松田会長 そのほか、いかがでございましょうか。

○石井委員 今回の水環境計画についてですが、基本的には今回の基本計画が傘で、それぞれ個別計画としてある程度切り分けを行ったというふうに理解しているのです。水環境計画を統合するという意味が少しわからなかったのですけれども、具体的に水環境計画が個別計画として残りつつ、その思想みたいなものが今作っている環境基本計画に統合してい

くような解釈なのか、水環境計画に書かれていることは、例えば、水道、下水道、あるいは、みどりの基本計画等々の個別計画に分散して入れ込んでいるので、水環境計画という個別計画そのものがなくなってしまうのか、その辺がわからなかったのも、教えてください。

○事務局（八田環境対策課長） 水環境計画につきましては、資料2の上に描いている図で示したとおり、環境基本計画の下部に位置するある意味中間計画的な位置づけで置かれていたのではないかと考えております。

今のご質問に対しまして回答は、基本的には後者のほうで、水環境計画として取りまとめる形はなくなってしまうのですけれども、その中身である水環境像、九つの目標につきましては、極力、当該第2次札幌市環境基本計画にしっかりと入れ込んでいきたいと考えております。

○石井委員 半澤（實）委員と同じ意見になりますが、達成されているからという解釈ではなくて、より具体的に、積極的に施策を進めていくのだと、今回の環境基本計画を積極的に進めていくという思想で、この水環境計画の中身を各個別の計画にしっかりと反映させていって、次の個別の計画を考えるときにはこういったところに漏れがないかどうか、しっかりとチェックしてやっていただければよろしいと思います。

○松田会長 そのほかいかがでしょうか。

○宮本委員 質問です。

例えば、札幌市は、汚泥の活用とか、今、結構話題になっている下水道の水力発電、雪解け水の活用計画はないのか、ここはまた別のテーマなのか、その辺を教えてください。

○事務局（八田環境対策課長） 下水汚泥の再利用に関しましては、廃棄物の再利用という分野になると思いますが・・・

○事務局（大平環境都市推進部長） 下水道部門で計画をつくってしまっていて、その中にエネルギー分野ということで、西部スラッジセンターでの汚泥焼却でバイナリー発電をするなど、エネルギーの取組は下水道の計画に入っています。水環境計画というより、下水道単独の計画の中で触れられていると理解しております。

雪氷については、特段触れられておらず、研究程度だったのではないかと理解しております。

○松田会長 そのほかいかがでしょうか。

○半澤（實）委員 前回の会議でも発言させていただいたのですが、SDGsの認知度、あるいは、理解度についてお伺いさせていただきたいと思っております。

私は、今回、資料でいただいたシンポジウムにも参加させていただいたのですが、ある大学内の調査では、SDGsを知っていますかという問いに対して知っているとの回答の学生が18%とのこと。今回の基本計画に盛り込まれているSDGsの目標や目的について、市民の方々に理解を深めていただいて浸透を図っていくためには相当な努力や取

組が必要だろうと思います。もしそれがなければ、基本計画自体が絵に描いた餅になってしまいます。

今後の予定ですけれども、認知度の向上に向けての取組について、事務局としてどのような考え方をされているのか、お聞かせいただきたいと思います。

○事務局（金網環境計画課長） 今、SDGsの認知度が非常に低い中で、どのようにして認知度を上げていくかというご質問でございます。

その前提として、今、SDGsが十分認知されないと基本計画自体が絵に描いた餅となるというお話だったのでけれども、先ほど佐竹からもご説明しましたが、SDGsについては、この基本計画の取組をしていく中で、17個の目標、ゴールにも繋がっていくのだということを、札幌のローカルな取組が世界にも繋がっていくということを市民や事業者の皆様にご理解いただくための一つのツールとして活用していきたいと考えております。まず、これが知れ渡るように取り組んでいくわけですけれども、それが無いから基本計画が進められなくなるというものとは違うということをご理解いただきたいと思います。

それから、周知については、SDGs自体が非常に幅広いものとなっておりますし、これについては、さまざまなステークホルダーなどとも連携を図りながら、機を見ながら周知していかなければいけないと思っています。具体的な方法については、これからまた検討してまいりたいと考えております。

○半澤（實）委員 申し訳ない言い方をしてしまいましたが、実感として、施策の関連性の中で、1つの目標と他の目標、ターゲットとの関連性についても十分な理解が必要となると思います。例えば、この計画がインターネットや広報で公表されたときに、市民の方々はどんな形で受け取るのかという懸念で、私は申し上げたのです。絵に描いた餅は言い過ぎだったかもしれませんが、その辺をどういうふうに浸透していくのかという捉え方について質問させてもらったつもりです。

○遊佐委員 SDGsは環境省の施策の一つになっています。実は、平成29年5月24日に、うちの小林事務次官がSDGsはこれから環境教育を進めていく上での大きな羅針盤になるだろうという話がございます、それが思わぬところで環境新聞に出てしましまして波紋を呼んでおります。

実は、環境教育促進法というものが環境省の所管の中にございまして、政策の部分がかなか具体的に見えないということもあり、それを補うためにSDGsを進めれば開発目標が出ているので、もう一つの羅針盤としてそれを進めていけば、少しずつ浸透していくのではないかとということで、今年度の環境白書にも書かせてもらいました。

環境省としても、SDGsの絡みの市民の協働取り組みの予算が出せて、財務省の要求に向かっております。そんな中で、恐らく札幌市は、こういう情報に気を使ってくれて早目に取り上げてくれたということで、私どもはすごく感謝しております。

実は、私は、このSDGsに関して、今まで一言も言わなかったのは、予算の動向が気になっていたからです。あらかじめ言ってしまうと、環境省内で予算が没になってしまう

懸念もありました。それで、基本は環境教育です。環境教育をどういうふうな形で広めていくか、その環境教育が学校にいきました。小学校、中学校では展開するのはなかなか難しい、それがESDというものです。それをもう少し大きく包括したものがないだろうかということで、SDGsということで、環境教育促進法をより具体化して施策に結びつけようということで、一つの手段として、今回、これを上げたということです。

私どもは、札幌市には非常に感謝しております。今後、その点の動向も踏まえて、学校の勉強ばかりだけではなく、市民にとっては公民館学習や、いろいろな方たちを浅く広く巻き込みながらも一つの目標に向かって考えて、そして、どういう形で仲間になっていこう、広めていこうというものです。私どもも、今、これから公民館学習のほうに目を向けながら、地域づくりを実践していきたいと考えております。

環境省の施策として上げたということでご理解いただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○松田会長 今、環境省の動向をご説明いただきましたけれども、ある意味、札幌市はSDGsを早く取り上げたという形になるかと思えます。

○事務局（金網環境計画課長） 今回、将来像として新しく「環境首都・SAPPORO」として描いております。環境首都・札幌については、平成20年に首都宣言しまして、そこからずっと言ってきたのですけれども、これから計画をつくった後、新たな環境首都・SAPPOROという姿を市民の皆さんにご理解いただかなければいけないと思っております。その際に、SDGsについてもご理解いただけるように取り組んでまいりたいと考えております。

○松田会長 そのほか、ご意見、ご質問はございませんか。

○田部委員 今のことと関連して、素案の3ページの目の全体像が非常にわかりやすいなと思って事前に見ていました。やはり第3章、第4章が非常に重要な部分です。

それで、1点、第5章と第6章、特に第6章の内容がほとんどない割には、全体の集大成のようなイメージを受けてしまって、これは分ける必要はあるのでしょうか。例えば、第5章と第6章を一つにしたほうがバランスがいいか、もしくは、分ける必要があるのでしたら、第1章、第2章のようにもう少し目立たないように書かれたほうがいいのではないかと感じました。

○事務局（金網環境計画課長） 検討させていただければと思えます。

○松田会長 確かに、第6章は1枚で、それまでとは大分違いますね。

○大崎委員 SDGsのことがいっぱい出てきたのですが、この計画ではSDGsの認知なくて環境基本計画をどうしていくのかというのがメインだと思います。ただ、52ページにあるように、環境の政策をすることによっていろいろな分野に影響がある、また、いろいろな分野の課題解決ができるということも、こういう表を通して市民の方に知ってもらうには非常にいいツールだと思っておりますので、市民の方がこういうふうに取り組むことによっていろいろなところに影響があるということがわかっただけであれば、それでい

いかと思います。

あとは、世界共通の目標ですから、札幌市もこういうふうに取り組んでいるのだというのが一覧でわかるようになっていけば、世界から見て札幌いいねと言っただけなのではないかと思っております。

一つ、意見と質問ですけれども、51ページの推進体制の点検・評価の視点の(2)の「『目指す姿』に、どの程度近づいているか」は、どういうふうにはかるのかなと思ったときに、市民または事業者アンケート調査などを毎年して、その結果をもとに審議会とか札幌市の会議で評価・点検をしていくのかどうかわからなかったというのが一つです。今回、計画を作るに当たって、アンケートをするのかどうかというのが質問です。

もう一つは、事業者のワークショップは毎月やりますけれども、点検・評価の中にはそういったことがなくて広く市民や事業者に周知を行っていきますという程度に抑えられているような気がします。でも、せっかくいろいろな方のお力をかりて計画を作ってきたところもあるので、点検・評価の中でも市民の方と考える場、お金をかけない方法もきっとあると思いますし、環境プラザという施設もありますので、そういったところで意見を募集するようなやり方も考えていただけないかと思います。私たちも手伝える部分はあると思いますので、市民が目指す姿にどう近づいているのか、自分たちが考える機会を作るのもすごく大事なかなと思いますので、ご検討いただけないでしょうか。

○松田会長 事務局から、これに対して何かご意見はございますか。

○事務局(金網環境計画課長) 2030年度の姿については定量的なものより定性的なものが多い中で点検評価を行うためには、今、大崎委員からもご指摘がありましたように、各個別計画の成果指標や進捗状況なども確認しつつ、市民や事業者のご意見や意識を確認することも必要だと考えております。その手法については、アンケートもありますし、おっしゃられたようなワークショップもあろうかと思っておりますので、今後検討してまいりたいと思います。

○松田会長 そのほか、ご意見、ご質問はございませんか。

○丸山委員 今回、事務局から大きな変更があった点ということでご説明いただいたことに関して、まず、質問をさせていただきたいと思っております。

素案の13ページの将来像(目指す姿)ですが、事前にメールで配信いただいた各委員の提案一覧と、今回、A3判サイズで配付いただいた提案一覧が若干違っているように思います。

どこが違っているかと申しますと、メールで頂戴したものには、最後に事務局の案が2案入っております。私は、それを拝見して、これはなかなかナイスなアイデアではないかと納得したところだったのですが、今回の素案ではメール添付の事務局提案のうち、石井委員のご意見だと思っておりますが、世界と共生する持続可能な都市とあって、その下に副題としてこの子どもたちの笑顔というのが入っていて、セットになった将来像だと理解していたのですが、今回、その点に変更になった起草委員会のお考えもしくは事務局のご判

断についてご説明をいただきたいと思います。

○松田会長 起草委員会でも問題になったことですね。お願いします。

○事務局（大平環境都市推進部長） 起草委員会で検討した案では、世界と共生する持続可能な都市がメインで、副題の中に、豊かな環境を引き継ぎとか子どもたちというような、今の最終案の表現が入っていました。さらに、その下に、今までどおり三つほど具体的に説明するポイントも書こうということで、3段書きになっていました。そうなったときに、読みやすさという点で、副題が一番わかりやすく、世界と共生するというのがかたいという感想を持ちました。3段書きにして、真ん中の副題が一番わかりやすいという形が本当にいいのかという疑問が事務局にもありまして、そこは何とかシンプルにしたいと考えておりました。

それから、起草委員会の中では、世界と共生するの「共生する」が伝わるのかという意見もありまして、事務局への宿題で持ち帰らせていただき、いろいろ検討しましたが、「共生する」を超える言葉がなかなかなく、また、「共生する」には非常に深い意味があって、使う場合は、かなり説明しないとだめだろうとなりました。本題、副題、さらにその下の説明を読んで理解ができる言葉を使っていいのか、非常に悩みました。

副題のところですが、丸山委員からいただいたやわらかな表現は、実はこれが一番伝わりやすく、これを前面に出して、世界と共生するということは、その下の説明の中で、要はローカルな課題かもしれないけれども、それはグローバルにも繋がるし、これからは地球規模で考えなければいけないということを説明することで、世界と共生すると言わなくても伝わるのではないか。そして、「笑顔で暮らせる」は、経済面や環境面、それから、札幌の魅力アップ、さらには、地球環境の保全も含めて包括できる表現でありますので、事務局の案としては、副題をなしにして、このわかりやすい言葉をメインにして、その下に説明というシンプルな2段書きにしました。

○松田会長 ここは非常に重要なところですから、皆さんからいろいろご意見をいただければと思います。「次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる」という言葉に、この前とは大分文章が変わりました。ここは皆さんからいろいろご意見をいただきたいと思います。

○田部委員 今日のメインのところかもしれないのですが、私は、個人的には結構好きです。それで、今、ご説明いただいた理由も納得できます。

1点だけ気になったのは、「子どもたち」というのがわかりやすいか。今の世代から見て子どもたちというのはみんなを指しているのか、やはり、その世代の子どもたちで老人は虐待されているのか。もしかしたら、ほかの案にもあった誰もがとかみんながという言葉のほうがいいと思いました。

以上です。

○松田会長 この子どもというの、実は起草委員会でも意見が出たのですが、ほかの委員の皆さんいかがでしょうか。

○大沼委員 ここは本当に悩ましかったのですが、少なくとも僕個人の要望としては、本

当は狭い札幌、“今・ここ”だけではなくて、広い世界、そして、将来世代、時間、空間ともに広がりのあるものを含み置いてほしいというものでした。今までは、世界という空間的な広がりがあり、今回は将来世代という時間的な広がりがありとなっています。本当は両方入るのが理想的ではあったのですが、最後まで起草委員会で残ったのが、先ほどご説明いただいたとおり、世界と共生するという言葉でした。最後まで捨てがたかったというか、僕は捨てて欲しくなかったのですが、ただ、最後は、この三つの丸ポツの中ではっきり書くということで、わかりましたというふうになった次第です。

ですから、誰もがというと、そういう時間的な未来への広がり弱まってしまふなということで、あえて次世代の子どもたちと強く残しました。将来世代という時間的に未来を見る、それは先ほどのSDGsの議論ともかかわってくるのです。既にほかの委員がおっしゃってくださったことの繰り返しになりますが、例えば、30年前に地球温暖化とか持続可能性という言葉をごだだけの人が知っていたかと言われると、あまり知っていた人はいなかったです。これは2030年までの計画ではありますが、そのときにこういう言葉ができるだけ広まってほしい、それがもしかしたら絵に描いた餅になるかどうかは、それこそこれを作った後の話であって、そのために何をするかは別の議論です。少なくともここに書いておかなければ動きようがないので、きちんと未来志向的であることを基本計画全体に通底するものとしてきちんと書いていただけたということではいいのかなと私は理解しております。

○松田会長 そのほか、ご意見いかがでしょうか。

○永田委員 今の部分に関しましては、私は、子どもたちという言葉が入るのが未来を非常に感じさせてとてもよいのではないかと思いました。今日拝見しまして、とてもよくなったなというふうに感じておりました。

もう一つ、確認したいというか、お尋ねしたいことがあります。

素案の32ページの資源を持続可能に活用する循環型社会の実現ですが、その続きで、34ページをご覧いただきたいと思います。

特に気になっておりますのは、食品に関することですが、食品ロスの問題や消費生活を一人ひとりが意識して資源を無駄にすることなくということで、1人ずつの消費のスタイルについての意識改革ということを上げているのですが、例えば、企業で考えますと、フードバンクのような考え方も必要ではないかと思うのです。食品を廃棄して、それをただのごみにするのではなく、肥料にするといった有効活用は書いてあるのですが、食品を食品として有効に活用するという視点は入らないのかということがあります。

フードバンク的な考え方、視点が必要ではないかと思っておりますのは、フードバンクの取り組みでは、例えば大手の食品流通企業等は協力に非常に消極的と聞いているのです。例えば、そういうことをしてしまうために価格が下がってしまうということは、個人個人の消費生活意識を変えていくのも必要ですが、企業の側の取組を促進していくような視点も必要ではないかと思いました。それが入らないものかという気がしております。

○松田会長 確かに、このところは、今までの審議会でもあまり話題にならなくて、今回も全く訂正がないところですが、今、永田委員からそういったご意見が出ております。

事務局としては、そういった考え方もこの中で検討していただけるのでしょうか。

○事務局（金網環境計画課長） 検討させていただきたいと思います。

○松田会長 そのほか、いかがでしょうか。

○大沼委員 すごく些末なことですが、42ページの上の(2)「環境首都・SAPPORO」の実現に向けた2030年の姿、市民・事業者の姿とあって、「全ての市民・事業者が、豊かな自然の成り立ちや生物多様性について理解し、自然環境や景観に配慮したライフスタイルや事業活動を実践している」とありますが、ここだけ日本語が変な感じがします。「ライフスタイルや事業活動を実践している」を直していただきたいと思います。ほかのところに揃えるならば、「自然環境や景観に配慮した活動を実践している」でいいのかなと思いました。実際に具体的な取組の中に、ライフスタイルへの転換とか書いてありますので、ここではそのぐらいでいいかなと思いました。

言葉尻の問題です。

○松田会長 その辺は、ご検討をお願いします。

そのほか、いかがでしょうか。

○石井委員 先ほど言おうとしたのですけれども、2点あります。

1点は、恐らくこれは計画ができたなら札幌市があちこちでこういう計画ができましたとプレゼンテーションをやっていくのだと思うのですけれども、第1次から何が変わったのか、ずばっというのが必要だと思うのです。

例えば、冒頭の市長挨拶に、第1次計画ではこうだったけれども、第2次計画ではこんなふうに新しい考え方が入って変わったと第2次計画の特徴を書く、あるいは、どこかのコラムで書くなど、これから20年続く計画ですから、前は第1次で初めて作ったわけですからそういう項目がなかったのですけれども、今回は第2次ですから、第1次との違いを少し明確にしてほしいと思います。我々が2年近くずっと作ってきましたけれども、我々もだんだんぼけてきて、右か左かわからなくなってきたのですが、これは最後に作る時にそこをもう少し明確に、メリハリをついた内容に文章を仕立てていく。最初の市長の言葉が一番大事かと思いますので、まずはここをお願いしたいというのが一つです。

それから、僕が授業でもよく言うのですが、計画というのはできた瞬間から紙切れになるのです。いかに実際に計画を行っていくことが大事か、あるいは、リバイスをしていくことが大事かというのがすごく問われるのです。そういう意味で、先ほど11月にこの環境審議会が終わって、次の第11次から評価をやるということでした。先ほど大崎委員がおっしゃったように、評価のやり方は今までと変えたほうがいいと思うのです。評価の仕方を検討するといいますか、今までの個別評価から上がってきたものも一つのやり方ですが、アンケートも一つのやり方ですけれども、新しい計画に沿ったような新しい評価の仕方をぜひとも次の環境審議会でも議論していただけるようなことを考えてほしいと思います。

以上、2点です。

○松田会長 確かに、新しい第2次計画の位置づけは、第1章の説明ではよくわからないのです。なぜ第2次が必要なのか、非常に簡単にしか書いていないものですから、私ももう少し詳しく書いたほうがいいたろうなと思っていました。今、石井委員からご意見がありましたので、ぜひご検討をお願いしたいと思います。

それから、評価については、私も前にごみの減量化の審議会をやったときもそうでしたが、次の審議会がそれを評価するのです。そうすると、作った人が評価するようなものなのです。あれはどうもおかしいと思うのです。評価というのは、本来、第三者がするものだと思いますし、今の石井委員のご意見もありましたので、評価方法は是非札幌市当局も考えていただきたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。

○丸山委員 議論を戻させてください。13ページの将来像のところの話をつけたいという気持ちでおります。

ここまでの議論をお聞きしていると、特にこの案に反対という意見はないので、これで行こうというこの審議会の決定であると理解して、この後の意見を出してよろしいでしょうか。

○松田会長 私は、この審議会で決めたいと思っています。後から意見を聞くのではなくて、この場でどうしても決めてしまいたいと考えています。ですから、意見をたくさん出していただきたいのです。

○半澤（久）副会長 起草委員会では、先ほど話題になった共生という言葉に私はこだわって、これは難しいのではないかと申し上げました。私は、もともと建築分野なのですが、建築分野で環境共生というところある意味非常に限られた範囲のことを言ったりすることも多いので、一般の方々にはわかりにくいのではないかとということで、これにかわる言葉をぜひ考えてほしいという提案をさせていただいてこういう表現になったので、私としては非常によくできていると思っています。

サブタイトルがあるほうがわかりやすいという考え方もあるのですが、今回のように、ここで環境首都を強調していることと、先ほど大沼委員がおっしゃったように時間的なものをきちんと含んでいるし、あとの三つのところでさらにそれを詳しく説明しており、これも非常にわかりやすい言葉で書かれているので、いいのではないかと思います。私自身は、再度提案をいただいたものを見て、よいと思いました。

補足で付け加えておきます。

○松田会長 そのほかいかがでしょうか。

○半澤（實）委員 私も、この「次世代の子ども」というところに非常に関心があります。この計画期間は15年先では終わっています。現在の子どもたちは大体20歳近くを迎えます。そのとき、この基本計画がどのような進捗状況にあるのか、また、それらの青年からどのように評価されているのかという捉え方も一つはあると思います。ですから、次世代

の子どもというのは、ある意味では将来性を捉えていて、私としてはいいのかなという考え方を持っています。

○松田会長 そのほかお願いします。

○宮本委員 今さらこういうことを言い出すのも何なのですけども、私は子どもたちというのがひっかかったのです。皆さんからいただいた意見にも子どもたちと入っていないのですが、お話を聞いていて、いいかなとだんだん思ってきたのです。

ただ、委員として思うのですけれども、札幌の今の世代の子どもたちは、笑顔で暮らすに至っていないということを私たちがきちんと思ってこれが出ているのか、それとも、あると思って持続可能という言葉は今ここに入れようとしているのか、もう一回、ここで皆さんと確認したいと思います。

私自身は、私の友だちが子ども食堂をやっていたり、私も前職は社会福祉協議会でした。その中で、今、子どもたちが笑顔で暮らしているとは思っていません。もちろん格差とかいろいろありますけれども、私がこれを言うとしたら、今はなされていないという前提でこの言葉を書きましたと言いたいと思うのです。そこについて、ここにいる皆さんはいかがでしょうということをここで確認させていただいた上で、いいかなと思いたいのです。

○松田会長 爆弾発言ですが、いかがでしょうか。

○遊佐委員 この「次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市『環境首都・S A P P U R O』」を見た瞬間に私が思ったのは、次世代の子どもたちは、確かに丸山委員がおっしゃる部分も感じられますけれども、こんな話があります。私も熊本地震に被災しましたので、そのときに、子どもと母親がいて、ごみの分別って大事なんだね、お母さんと子どもが言ったときに、これって何なのだろう、環境教育だよと言ったそうです。そのときに、環境教育とはどんなのだろうとって子どもたち同士が考え出したのです。そこから一つの物語が生まれるとしますと、この中には子どもの背中を大人が押してあげる、将来、未来が浮かびました。

それから、ここで笑顔で暮らせるは、安心・安全、そして、創造という単語が私の中で思い浮かびました。つまり、次世代の子どもが笑顔で暮らせる持続可能な都市は、心の中に五感が発生したときの瞬間かなと私は思っております。

なぜこういうことを言うかという、これが熊本の1つのごみステーションでの活動が市民たちから始まったからです。ですから、町内会活動やP T A活動に繋がっていくことかなと非常に感銘を受けております。そういう意味では、大人が子どもの背中を押してあげる機会が必ずあります。そのときに次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる、この笑顔というのは非常に大事な部分だと思っております。笑顔によって、職場も、心も、学校も明るくなる、そして、その明るい気分の中で一晩寝て夢を見て、その夢が将来にかなうような繋がりがある、このフレームだけでそういうふうに思いました。だから、私はこれを生かしてもらいたいと思っております。

よろしくお願いします。

○栗田委員 私も、最初にこれを見つけたときに、子どもたちだけなのかなと一瞬思いました。ただ、受ける市民の側からすれば、すぐつながるという点で、次世代の子ども、次の子どもというイメージはつきやすいと思いました。

ただ、子どもたちもいろいろな子どもたちがいますけれども、その中で男女だったり貧困というものを考えたときに、全ての子どもたちというようにいろいろな状況下にある子どもたちが入ると、少し未来として動けるかなと感じました。

あとは、暮らせるというよりも、将来像として全ての子どもたちが暮らすというほうが意欲的な将来像かなと思いました。

本当にこれを変えるつもりはなく、これは全て決まったという前提において、少し付け加えるならという意見です。

○松田会長 いかがでしょうか。

○石井委員 事前のメールでは私の意見がという話もありましたので、私も一言だけコメントさせていただきます。

先ほど、大沼委員から、空間を超えて、時間を超えてという話がありました。私の次世代の子どもたちのイメージは、当然、次世代というのは時間を超えて次の世代です。子どもたちというのは、実は、私は、札幌だけの子どもたちではなくて世界中の子供たちも含むだろうと考えています。それから、自然、物言わぬ弱者に優しくあるべきだと思っていますので、そういった意味で、私は共生という言葉が個人的にはすごく好きなのです。

そういう時空間を超えた物言わぬ弱者に、札幌が持続可能な都市というものを通して、貢献とは言いませんけれども、そういった取組をしっかりとしているのだとこの言葉ではそういうふうには解釈しているので、いろいろな意見を出させていただきましたけれども、事務局は苦労してよく考えてくれたと私は思っております。

○松田会長 そのほかいかがでしょうか。

○石塚委員 私が環境活動をするようになったのは、今から30年前の牛乳パックの運動ですけれども、そのときの合言葉が「緑の地球を子どもたちへ」で、全国のお母さんが牛乳パック運動に取り組んで、30年前は全く無分別だったごみを黒いごみ袋から分けて今になっています。すっかり牛乳パック運動は当たり前になってしまったのですけれども、30年前は、札幌市でさえも全く見向きもしなかった。見向きもしなかったどころか、全くそんなというふうには言われたものが、今では当たり前になっています。

そういった30年前のスローガンが、少なからずとも紙パックに関しては実現できました。ある種、目指す姿をきちんと描くことによって、そこに向かっていけます。そのときも、私たちにとってキーワードは子どもたちだったのです。もちろんお子さんのいる人、若いお母さんは、子どもたちのために、お孫さんのいる方たちは孫のために、また、その次の世代という未来に向けた取組を自分たちでやらなければいけないということをそのときに感じながら取り組んだということを見ると、私も長いタイトルだなど思いながらも、このタイトルはあくまで目指す姿、今、笑顔ではない子供たちもいるかもしれないけれど

も、目指す姿としては全ての子どもたちに笑顔で暮らせる世の中を作っていこうということのスローガンに上げて環境都市・SAPPOROを目指す、これはとても大事なことかなと思いました。

私は、食育の委員をやっています、そこではさっぼろ食スタイルを推進しているのですが、余り目立つようなことはしていないのにどこがさっぼろ食スタイルなのかと聞いたところ、食育の中に環境、エコに取り組んでいることがさっぼろ食スタイルという大きな特徴ですというお話をされました。環境首都となっているから、札幌はさまざまな政策に環境やエコを入れて札幌スタイルがれている、まさしく環境首都・SAPPOROという形でさまざまな政策に盛り込まれているのだなということを実感したのです。

そういったことでは、私は、このタイトルについて、一応、方向性としては賛成のつもりで意見を述べさせてもらいました。

○松田会長 そのほかお願いいたします。

○田部委員 私は、基本的には賛成ですけども、初めに、子どもたちが気になるということで、大沼委員の説明を聞いて、未来志向の意味で一度は納得したのですが、私が納得した理解としては、次世代の子どもたちということで、人々という意味で受け取ったのです。今のご議論を聞いていくと、次世代に全ての子どもたちがと子どもに限定しているような印象になってきてしまっています。実際には次世代の全ての人々という意味ではないかと思うのですけれども、その辺が誤解を招くのではないかということで、初めに気になる申し上げたのです。

その辺は、皆さんどういうつもりで話されているのですか。

○松田会長 皆さん、この辺はどうですか。

○永田委員 長さとか短さとか、何を入れ込むとか、切りがないのではないかという気もするのです。子どもたちというのは、子どもたちだけを指しているのではなくて、子どもたちが笑顔でいるということは、周りの大人も、祖父母に当たるような高齢者の方たちもみんなが笑顔である、それを象徴しているのが子どもたちの笑顔と私は受け取るのです。ですから、ここに子どもたちの笑顔という言葉が入るとするのは、全ての人々が笑顔でという意味合いになっていくという意味で賛成です。

反対のご意見をお聞きしたいと思いますが、どうなのでしょう。

○松田会長 今、永田委員からそういうお話がありましたけれども、これに対して、もう少しこうしたほうがいいのか、反対のご意見はございますでしょうか。

○丸山委員 反対かどうか迷っている意見です。

まず、迷っているポイントは、まさに今、それぞれの委員からご発言があったとおりはありますが、私が一番外せない言葉として捉えていたのは世界という言葉です。大沼委員のご意見では、広がりとか空間、さらには繋がりということだと思えます。この言葉をどうにか入れられないかと迷っています。その点で反対という言い方もできるかと思いません。

もう一つの理由としては、これまでの案では世界に発信するという目指す姿で、将来像で、議論して、記述してきましたので、現内容では世界を意識しているポイントが非常に多い状況であると言えます。そのときに、ややそごというかうまくぴったりと新しいスローガン、目指す姿像と一致して読み込んでいけるかという点について、かなり不安を持っています。

例えば、このすぐ下にある三つの白丸で書かれているものを読み解いていきますと、一つ目は、タイトルをつけるとすれば最後の行の札幌らしい豊かなくらしの文化が根づいている、二つ目が国内外にその取り組みと魅力を発信している、三つ目が、経済的循環が実現しているという3本柱になっています。このことが次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市とぴったり読み込んでいけるかという点、私はそうは思えません。

例えば、特に二つ目の部分については、内容としてはよろしいのかもしれませんが、書きぶりは世界に発信するという状態の文章で残っていますので、そのまま読み込めません。例えば、記述を少し逆転させて魅力を発信している文頭に戻り、産学官が協働している都市にするとか少し記述を変えていかなければ、なかなかこのタイトルのとおりに、将来像の姿のおり読み込んでいくのが難しいと思っております。

では、そうしたらいいのかと聞かれると思うのですが、今考えた案ですから、いいとは言えませんが、やや無理やり世界という言葉と、議論はあるかもしれないですけども、残しておきたい共生という言葉を入れ込み、さらに、字数は長くないほうがいいのかという意見もありましたので、今考えたものを読みます。

世界と共生を入れます。そして、残念ですが、子どもたちは除きます。すると、次のようになります。次世代が世界と共生して笑顔で暮らす持続可能な都市です。

苦しいでしょうか、ご議論いただければ幸いです。

以上です。

○松田会長 次世代が世界と共生して笑顔で暮らす持続可能な都市ですね。

今、丸山委員からそういったご意見がありました、いかがでしょうか。

○石塚委員 丸山委員のご意見に私はあまり賛成できません。確かに、世界を意識するのは大事だと思うのですが、実際にまちの中で暮らしているとあまり繋がりがありません。やはり意識するのは大事ですが、本当に地域の中で笑顔をもってみんなで暮らして足元から本当に動物や水、いろいろなことに気づきながら暮らしていける、そういう持続可能な都市を目指せばなと私は思っていたのです。もちろん、世界に発信するのも、意識するのも大事ですけども、私なんかは世界を意識する前に北海道や日本でしょうと別な視点で思っています。特に今、自分の町内会のことで精いっぱい活動していると、本当に一人一人が豊かに暮らすためには、地域でいかに一人ひとりを見守っていくかというところから活動しているわけですから、もちろん目指す姿としては世界を意識するのも大事ですけども、ここで次世代がというふうになってしまうと、またこれを読んだ方が自分との繋がりが見えないかなという気がしました。

私は、子どもたちという言葉は、誰の子どもではなくて、本当に未来ある子どもたちがいずれ大人になるだろうし、さっき子どもたちの背中を押すという言葉があったのですけれども、もちろん背中を押してあげるのも大事ですが、やはり大人の背中を見せて大人が手本となるべきことをしていかないと子どもには何も残せないと思っているのです。よく小学校でいろいろな話をするときに、今の大人は、ああすればいい、こうすればいいと子どもばかりに要求するのです。でも、自分たちは挨拶一つしていないではないかと言うと、分別も挨拶もしていないような大人に子どもたちが見習うわけがないですから、私は、札幌市には、大人がきちんとした姿を見せて子どもたち手本となるべきことをして繋げていくというような持続可能な都市になってほしいなと思いました。

○藤川委員 私は、最初に、環境首都・SAPPOROという言葉を見たときに、すごいことを言うのだなと思って受け取っていたのです。でも、それだけ覚悟を決めてやっていくのだなと思ったときに、この環境首都に世界に向けてという部分が含まれていると感じていました。ですから、世界という言葉をはかのところに使わずとも、ここから読み取っていけるのではないかと思います。

もう一つ、小さなことですが、三つ目のところで、エネルギーや製品の地産地消が進み、経済的循環が実現している都市というところを読んだのですが、少しだけ突っ込みを入れたくなりましたので、言っておきます。

これは、北海道としての地産地消で経済的な循環が実現しているというのはわかるのですが、最後に経済的循環が実現している都市となっているので、札幌の中だけで地産地消等で循環が実現しているように誤解されないかなと思いました。ですから、経済的循環の中心となっているとか、少し言葉を考えたほうがいいのではないかと、そうしないと、道内の他の市町村からやっかみを言われるかもしれないなと思いました。

以上です。

○半澤（實）委員 「暮らせる」と「暮らす」、先ほども多少ご意見が出ていたと思うのですが、私の捉え方は、「暮らせる」というのは誰かがサポートする、あるいは、支え合う中で「暮らせる」という意味合いでとりました。

もう一つは、「暮らす」ということになれば、やはり自立して暮らすという表現になるのかなと思います。ですから、ここで、「暮らせる」というのは、やはり札幌市民同士が支え合う、あるいは、サポートし合う中で、「暮らせる」という意味で理解しましたので、この文言のほうがよろしいかなと思います。

○松田会長 いかがでしょうか。

○宮本委員 初心に戻ってみますと、次世代と子どもたちがダブっているのはあまり意味がないと思うので、子どもたちでいいと思います。それから、子どもたちに笑顔というのは、すごく保険会社のコピーライティングだなと思い、私はすごく抵抗があります。ちょっとひねくれて言えば、オウム真理教もいつもすごく笑顔でした。だから、笑顔というものをどう思うかということ私を気になります。

今、私も、例えば、子どもたちに北の自然と都市の豊かさを手渡すとか、考えていました。それに持続可能なまちを生かすのだろうなと思っています。

反対意見でした。

○松田会長　ここで結論を出すのは難しそうですが、いかがでしょうか。

○半澤（久）副会長　先ほど、私がお願いをした共生という言葉はできるだけ違う言葉で表現してくださいというのは、多分、持続可能という言葉の中にも共生という意味合いを含んで理解することができるし、今、いろいろな方々が一つ一つの文言に対していろいろな解釈をされるわけですから、190万人の市民一人ひとりには恐らく個人個人みんな違う解釈をしてこれをモットーとして読み取ると思うのです。あくまでも、これは2030年あるいは2050年を目指して、そういう姿になりたいということを含んで心に持ちましょうということだと思っております。ですから、そういう意味で、標語的な表現ですから、多少コマーシャルコピーのような表現も使っているかもしれないけれども、今回の次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市というのはよくできていると私自身は思っていますので、できればこの案で、あるいは、先ほどの最後の語尾を少し変えるという議論があったので、その辺をもう一度ご検討いただければと思います。

先ほど石井委員もおっしゃったように、今度これを市民に知らしめていくときに、少し説明するとき、下の3項目の記述に加えて口頭で何か補足説明があれば、よりよく理解していただけるのではないかと思います。できれば、この形がいいのではないかと思いますし、やはり札幌市が目指す姿ですから、まずは札幌市民一人ひとり、札幌市というまちがきちんとしなければいけないし、先ほど藤川委員がおっしゃったように北海道全体を見て札幌市で、今は北海道の人口が札幌市に集中している状況がありますから、その中心になるという考え方は非常によいかと思いますので、その辺は加えていただければと思います。そういったことで、基本的にはこのままでいいのではないかと私は思っております。

○松田会長　まとめていただいた感じですが、そのほかご意見いかがでしょうか。

できれば、私は、何とかここでまとめたいと思っています。これをまた議論しなおすとなかなかまとまらないと思うのです。ですから、事務局がこの後考えるのではなくて、皆さんがいるここで、皆さんが納得して決めていただきたいのです。

○永田委員　先ほどは、子どもたちが入ったことで、私はとてもいいなと思ったのですが、ただ、これを拝見する前にメールでいただいていた皆さんの案を拝見して一晩考えてこれはどうかなと思ったのがありますので、没にしてくださって結構ですが、申し上げてみたいと思います。

持続可能な世界を目指し、健やかに発展するまち環境首都・SAPPOROと考えてみました。持続可能というのが都市についていたり、世界についていたりしたのです。それはどちらなのかなと思ったのですが、最終的にはどっちもですけども、最終的には世界全体が地球全体ということを目指した概念だろうと思うのです。ですから、丸山委員がおっしゃったように、世界というのは外せないのかなと思っていたものですから、それがつく

形で、なおかつ、市民が健康で安全で安心して暮らせるようなということを一言で表せないかなと思いましたが、健やかなという形しかないと思いました。

聞き流して下さって結構です。

○松田会長 また新しい案が出てきましたけれども、いかがでしょうか。

○眞鍋委員 皆さんの大変広い、しかも奥の深い話を聞いていて、なるほどと思っていたのですが、このまま帰ってしまうと何しに来たかわからないので、お話しします。

このことに関して言うと二つありまして、一つは、子どもたち「は」でもないし「も」でもないし、「が」がいいなと思ったのが一つです。

それから、皆さんから出ていたように次世代と子どもも違和感があるし、持続可能とは何だろうと思うし、環境首都・SAPPOROのSAPPOROは何だろうと思うのです。ある意味では、非常にごつごつした何だろうと考えさせるところがいろいろとあるのですが、よくあるのですが、ずっと入ってくるのはすぐ忘れてしまうので、皆さんがこれだけいろいろ議論が沸騰するようなどころどころにちりばめられているのは、私としては大変印象深くていいなと思いました。

以上でございます。

○松田会長 いかがでしょうか。

○大沼委員 別のアングルからですが、ここに至るまで市民参加のワークショップに参加させていただきました。当時は世界に貢献すると書いてあったのですが、少なくともワークショップ参加者からはあまり評判がよくなかった部分があります。それは、先ほど来、石塚委員がおっしゃっていることとも関係しているのだと思うのです。

やはり、ぱっと見た瞬間、直感的に多くの市民にイメージしやすい、想像するものはいろいろあって構わないと思うのです。それは、一人ひとりこれを見て想像するものが違うのは仕方ないことだと思うのです。それが保険会社のキャッチコピーであっても、ネガティブなものではない限り、あるいは、直感的に何かよさそうだなという印象があることが重要なのかと思います。最終的に決めるときには、そういう観点も考慮に入れていただくといいかなと思いました。やはり、これは、先ほど来、皆さんが言葉を変えて言っているとおり、作った後にどうするか、いかにいろいろ広げていくかということ、あるいは、これをどう評価していくかを考えたときに、持つイメージは人それぞれだけれども、直感的にこれはこういうふうな未来のことを見据えて作った計画だなという何か伝わればよい。最後はそこが大事なところかなと思いました。

○松田会長 どうでしょうか。

○大崎委員 私も、世界とかそういう言葉が大好きで、よく言っているのです。でも、この案を見たときは、私もずっと入ってきて、イメージが付きやすいと思っていますので、私は事務局案に賛成です。

○石井委員 私も、世界が好きですけれども、起草委員会のときに、世界という言葉に関しては、先ほど藤川委員がおっしゃったように、環境首都が非常にいい言葉で、世界とい

うか、概念としては国のバウンダリーを超えています。環境というのを一つ超えた中で、そこの首都になるというのですから、僕はそこにもう世界以上のものが入っているという気がしています。基本的には、これがすごいと思います。

これは没にしているのですが、僕の斬新的な案では、上下を入れかえて、「環境首都・SAPPORO」次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる持続可能な都市のほうがインパクトあると思います。

○田部委員 さっきからずっと見ていて、この文言だけおかしくなってきたのですが、やはりこれはいいのではないかと思いました。その理由を発表します。

恐らく、前々回までの世界に貢献していく持続可能な都市という意味がよくわからないということが市民ワークショップからありました。それで、いろいろ変更していただいていると思います。そう思って見ると、永田委員がおっしゃった「持続可能」が初めに来るとわかりづらいのかなと思いました。

そうすると、事務局案の次世代の子どもたちが笑顔で暮らせるというのは、持続可能な都市を説明しているのですね。そういう意味で、僕は、暮らすのほうがいいと思ったけれども、暮らすにすると持続する都市になってしまうので、暮らせる持続可能なのというのがしっくりくると思いました。いかがでしょうか。

○松田会長 そのほかいかがでしょうか。

○山田委員 私は、道庁の環境政策をずっとやっていて、いろいろな都市とか、東京や県の基本計画、環境政策のキャッチフレーズを見ているのですが、例えば工業都市で世界を意識して取組をやっているところで環境首都は結構使っています。世界の中の立ち位置を大きく出すのに結構使われる言葉かと思いますので、環境首都という言葉を使ったときに、既にそこに世界に向けた発信や思いが入っていると思うのです。ですから、私は世界という言葉があまり好きではないのですが、これでいいのではないかと思います。

それと、先ほどご意見もありましたけれども、極端な話、持続可能な都市「環境首都・SAPPORO」だけでキャッチフレーズとしてはいいと思うのです。下にそれを説明する「『持続可能都市』とは」と書いてあるのですが、この中の成分をぎゅっと抽出したのが次世代の子どもたちが笑顔で暮らせるということで、この説明の中にも、次世代の子どもたちが笑顔で暮らせる地域づくりに貢献していくのが重要になってきますという一文があって、この説明をずっと突き詰めていくと、この辺が一番のエッセンスになっているのだろうと構造的に考えられて、それを説明書きとして持続可能な都市の前に持ってきて、持続可能な都市を一言で説明するということになっていて、非常によくできたキャッチコピーになっているのではないかと私は思っております。

○松田会長 賛成、肯定的なご意見をいただきましたけれども、いかがでしょうか。皆さんも、このキャッチフレーズでいいのではないかというご意見が強いようです。

私としては、起草委員会のときも大分もめてこういう文言になったものですので、何と

かこの形でまとめて、下の三つの文章は先ほどもお話がありましたので、訂正するところは訂正して、主題はこのまま生かしたいと思います。

皆さん、ご賛成願えますでしょうか。（拍手）

どうもありがとうございました。

そのほか、ご意見はいかがでしょうか。

○丸山委員 一段落のところですが、実はまだまだ発言させていただきたいことがあります。ただ、間もなく時間になりますので、この後の進め方の確認をしていただいたほうがよろしいと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○松田会長 スケジュールについては、この後、事務局から説明があります。

○丸山委員 それでは、気づいたことを申し述べさせていただきます。

将来像が決まったということで、その下に続く「持続可能な都市」とはそのところの書き方について、次のような修正したらよろしいのではないかと考えています。

この「持続可能な都市」とはその記述の中で、持続可能な都市とは何かということについて言及しているのは、まさに太字でアンダーラインを引いた部分であり、それ以外のところは持続可能な都市にするために必要なこと、「そのためには」という文言も入っているように、そのために何をしたらいいのかという標記になっているように感じます。

例えば、行動することが必要ですとか求められます、繋がっていきますという書きぶりになっているのですが、ここを、2050年の札幌の姿の表現を少し盛り込むなど、持続可能な都市を次世代の子どもたちが笑顔で暮らすと一旦標語で説明したけれども、それは何なのかがもう少しわかるような書きぶりに修正できないかと思っています。

語尾表現などを少し修正することで、目指す姿としてのイメージの書きぶりになるかと思っています。うまく説明できませんでしたが、「持続可能な都市」とはそのタイトルに対して、記述内容が持続可能な都市の姿よりは、そのために何をするのか、何が大切なのかという解決への取組策の内容表記になっているのではないかと思います。

実は、13ページから16ページあたりの構成は読みにくさを感じております。特に読みにくさを感じているのは、13ページの表題が「5. 2050年に向けた札幌の環境の将来像」となっています。まず、(1)で将来像を設定し、次に、将来像の実現に向けた五つの柱と施策の推進により目指すもの、そして、本計画におけるSDGsの位置づけ、そして、国内外への札幌の環境の周知の強化と産業振興、最後に、札幌市環境基本条例の第7条が書かれているという順番になっています。この順番が読みにくいです。特に、(5)の条例の第7条がこの位置にある意味が薄いような気がします。むしろ、第3章の札幌が目指す将来像の2、札幌市の環境保全に関する基本理念のあたりに持ってきたほうが読みやすいのではないかと考えています。(5)は前後の繋がりが見えにくく、位置としてもつたないような気がしています。これが2点目の意見です。

次に、14ページの(2)将来像の実現に向けた5つの柱と施策の推進により目指すものは、特に施策の推進により目指すものは何なのかという述語がどこに当たるのか、述語

に当たる部分がどこかが非常に読み取りにくいように思いました。8行しかないのに、施策の推進により目指すものは何々ですという述語がどこなのかが読み取りにくいのです。それがどこなのか、確認したいと思っていました。

以上、三つ申し上げます。

○半澤（實）委員 一つお願いがあります。

札幌市の環境施策は、環境白書の後のページに、環境保全年表として載っています。現在の冊子の11ページと13ページに、地球環境保全についての国際的及び国内の取組の内容が表として載っています。この表に加筆して一覧表として資料編に添付していただければと思います。

○事務局（金網環境計画課長） 現在の環境基本計画の11ページ、13ページに記載している表を資料編に載せてほしいということですね。

○半澤（實）委員 一覧表で構いませんので、この資料編に追加して世界や国内の動きを記載していただければ、理解する上で非常に助かります。

○事務局（金網環境計画課長） 検討させていただきます。

○松田会長 そのほかございますでしょうか。

（「なし」と発言する者あり）

○松田会長 それでは、これで議論は打ち切りたいと思います。

今までの議論で出されました意見の中には、いくつか検討及び修正が必要なものがありますので、当初の予定では本日が計画を検討する最後の会議となっております。本素案は、今後、最終答申という形で市へお渡しする予定となっております。ついては、いただいた意見を踏まえて今後の案の修正方法について、事務局からご説明をお願いいたします。

○事務局（金網環境計画課長） 貴重なご意見をたくさんいただきまして、ありがとうございました。

ただいまのご議論でいただきましたご意見を踏まえまして、今後また事務局で素案の修正を行ってまいります。その際には、起草委員会並びに委員の皆様へメールで確認させていただきたいと考えております。その上で、最終的な答申としての決定につきましては、委員の皆様方のご同意をいただければ、松田会長に一任とさせていただきたいと考えております。

よろしくをお願いいたします。

○松田会長 事務局から説明がございましたけれども、皆様にもメールなどで確認いただき、もしよろしければ私が最終的に答申の確定を行うという形でよろしいですか。

○丸山委員 お願いです。

少し文言の修正やそのほかの意見というのは、期限を決めて事務局にメールで提出することをご許可願えませんでしょうか。

○松田会長 当然、そういう形になりますね。

○事務局（金網環境計画課長） 今、この会議の場では出せなかったようなご意見などがご

ございましたら、1週間以内にメールなどでお知らせいただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

○松田会長 ということですので、ご意見をお寄せいただければと思います。

そのほか何かございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○松田会長 次に、議事(2)今後のスケジュールについて、事務局よりご説明をお願いいたします。

○事務局(佐竹調査担当係長) 今後のスケジュールにつきまして、資料3でご説明させていただきます。

資料3をごらんいただければと思います。

現在、7月5日、第7回会議です。最終答申に向けましては、これが最後の会議とさせていただき、先ほどご説明がありましたが、1週間をめぐりにご意見があれば事務局にいただきまして、それを取りまとめたものを最終答申ということで決定していければと思っております。

その後のスケジュールですが、この最終答申を踏まえまして、今度は札幌市役所で内部検討に入っていきたいと思ひます。おおむね10月ぐらひまでをかけて、この素案をベースにしまして、文言の修正や取組内容の検討などを進めていきたいと思ひしております。その最終案につきまして、恐らく11月末から12月にかけてになると思ひますが、市民意見の反映ということで、パブリックコメントを約1カ月開催させていただき、1月ごろ集計結果の公表、そして、2月もしくは3月ぐらひには環境基本計画の策定ということで、進めさせていただければと思ひます。

ただ、内部検討の間にも、適宜、情報提供はさせていただきます、もしご意見があれば随時いただければと思ひしております。今回の第10次環境審議会の任期が11月30日までとなっておりますので、恐らくこのパブリックコメントを出す段階あたりの最終案に近いものをもって、11月の第8回会議を開催させていただき、そこでご報告ができればと思ひしております。

今後のスケジュールにつきましては以上となります。

○松田会長 どうもありがとうございました。

ただいま事務局より、これまでの検討経過及び今後のスケジュールについて説明がありました。

これまでの長きにわたり検討を進めてまいりましたが、今月中には最終答申を札幌市に提出し、その後、札幌市役所内で合意形成、会議開催を行うとともに、11月、12月ごろをめぐりとしたパブリックコメントを経て、来年2月ごろに公表という予定となっております。

本審議会に対しては、最終答申後も、引き続きメールなどの情報提供はいただきたいと思ひますが、会議としては任期が11月で終了することもあり、市役所内での合意形成が

とれた成案の時点でご報告いただけることになっております。

本スケジュールについて、何か質問や意見などはございますでしょうか。

(「なし」と発言する者あり)

○松田会長 そういったスケジュールでよろしいでしょうか。

(「異議なし」と発言する者あり)

### 3. その他

○松田会長 それでは、これで全部議題は終わりましたので、最後に次第の3番目のその他についてお願いします。

○大崎委員 アンケート集計について少し説明させてください。ポイントのみ申し上げます。

これは「持続可能な地域づくりシンポジウム～世界が憧れる札幌を目指して～」ということで、札幌市、環境省、北海道、北海道大学、EPO北海道共催でシンポジウムを行いました。

SDGsに対して自治体または企業がどういうふうに着意を感じて、それを使って自分たちで盛り上げていこうか、また、どういうふうに魅力的なまちにしていくかというのを考えたシンポジウムです。

アンケート結果はこんなふうに出まして、一応、皆様からご好評をいただいております。

一つ申し上げたいのが8ページの問い7で、札幌市はSDGsへの貢献が必要なのかというすごく強い問いを設けたのですが、こちらに対して「思う」ということで、ほぼ全員がこういうふうに出していただきました。札幌市環境基本計画に限らず、全ての計画でSDGsという文言がどのような形で入ることをすごく期待しております。このような形で、札幌市民も札幌市の今後の動きをすごく期待していることがわかったシンポジウムになったと思います。

それから、ジェンダーのことがこのシンポジウムでは話題になりました。環境局の皆さんも男性ばかりですし、今回のシンポジウムのパネラーもほぼ男性で、だめですねと怒られているのですが、そういった部分も今後しっかり考えながら私どもも取り組んでいきたいと思っています。

また、1ページ目に書いていますが、動画を公開していますので、もしお時間がありましたら見ていただければと思います。

よろしくをお願いします。

○松田会長 私も参加しましたが、非常に勉強になり、楽しい会でした。札幌市の考えも、北大の考えもよくわかりまして、本当によかったなと思っています。

○石塚委員 昨年も皆さんにご案内いたしました3Rと低炭素社会検定がことしもあります。ことしは11月12日にちえりあで行うのですが、その1カ月前の10月にこの検定を受けるための講習会があります。この講習会を受けるだけでも3Rや低炭素社会の中身

についてよくわかるというとてもいい講習会ですから、検定を受けなくても講習会だけでも参加ということでお取り組みいただければと思います。

市の職員の皆様、そして、ここにいらっしゃる皆様の会社のスタッフの方、ぜひ環境教育という視点でやっていただければと思います。

ちなみに、10月15日の講師は石井委員でございます。大変わかりやすくご講義いただきますので、皆さんぜひ受講いただきたいと思います。

以上です。

○松田会長 そのほか、連絡事項はございませんか。

(「なし」と発言する者あり)

○松田会長 市からは、何かございませんか。

○事務局(金網環境計画課長) 本日も大変熱心なご議論をいただきまして、大変ありがとうございました。

議事の中でもありましたとおり、これまで約1年半、部会なども入れますと13回の会議を経まして、長い間、この審議会にて検討を行っていただきました。いずれの会議でも、委員の皆様には大変貴重で、ご忌憚のないご意見をいただきまして、事務局一同、大変感謝しております。この場をお借りしましてお礼を申し上げます。

今後につきましては、繰り返しになりますが、本日いただいたご意見なども踏まえまして素案の最終の修正を行い、今月末をめどに松田会長より最終の答申をご提出いただければと考えております。

委員の皆様方へは、随時、情報提供させていただきたいと思いますので、何とぞよろしくお願いいたします。

また、答申をいただきました後は、庁内での協議を経まして、11月から12月をめどにパブリックコメントを行ってまいります。計画の公表としては、来年2月ごろを予定しております。パブリックコメントの案が固まりましたら、11月の会議でご報告をさせていただければと思います。それまでの間、随時、情報提供をさせていただきながら進めてまいりますので、引き続きご指導、ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

本日は、どうもありがとうございました。

#### 4. 閉 会

○松田会長 それでは、以上をもちまして、第10次札幌市環境審議会第7回会議を終了いたします。

至らない会長でしたが、委員の皆さんからは非常に活発なご意見をいただきまして、私は楽しく会議を進行することができました。本当にありがとうございました。

まだ11月まで続きますので、ご協力のほどをどうぞよろしくお願い申し上げます。

どうもありがとうございました。

以 上